

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果について（小学校6年生）

国語平均正答率		本市	県	全国
		67	68	66.8
知 技	(1) 言葉の特徴	76.8	77.5	76.9
	(2) 情報の扱い方	64.6	64.8	63.1
	(3) 言語文化	78.7	81.5	81.2
思 判 表	A 話す・聞く	66.7	67.3	66.3
	B 書く	70.7	71.1	69.5
	C 読む	57.8	58.4	57.5

課題が見られる問題		正答率(%)		
		本市	県	全国
1ー	【話し合いの様子】における小森さんの傍線部の発言を説明したものについて適切なものを選択する。	51.2	54.2	53.3
3三 (2)	【資料1】を読み返して言葉の変化について自分が納得したことを、【資料2】、【資料3】、【資料4】に書かれていることを理由にしてまとめて書く。	54.2	57.5	56.3

話すこと・聞くこと、読むこと（思考・判断・表現）について、大きく二点の課題がある。一点目は目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することである。二点目は目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができることである。これらの課題に対しては、生活と関連付けたり「伝えたい」という思いを喚起させたりして目的を明確にし、カードや付箋などで情報を視覚化し、分類や関係付けをしやすくするなどの手立てが考えられる。

算数平均正答率		本市	県	全国
		59	58	58.0
A 数と計算		63.8	63.1	62.3
B 図形		55.7	54.7	56.2
C 測定		53.8	53.9	54.8
C 変化と関係		57.4	57.9	57.5
D データの活用		62.9	63.4	62.6
知・技		67.1	65.9	65.5
思・判・表		47.5	47.9	48.3

課題が見られる問題		正答率(%)		
		本市	県	全国
2 (2)	方眼上の五つの図形の中から、台形を選ぶ	47.0	45.1	50.2
4 (2)	使いかけのハンドソープがあと何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を判断し、求め方を書く	46.0	48.1	48.7

全国と比べて下回った問題の中でも、上の二点が課題である。一点目は台形の意味や性質について理解することである。二点目は伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述することである。一点目の課題に対しては、具体的な図形操作の活動を多く取り入れ、平行四辺形や長方形との共通点・相違点を実感させる手立てが考えられる。二点目の課題に対しては、表やグラフなどに表して数量の関係を視覚的に捉える手立てが考えられる。

理科平均正答率	本市	県	全国
	58	58	57.1
A「エネルギー」を柱とする領域	45.7	46.6	46.7
A「粒子」を柱とする領域	51.8	52.7	51.4
B「生命」を柱とする領域	52.9	53.1	52.0
B「地球」を柱とする領域	68.5	67.7	66.7
知・技	55.4	55.5	55.3
思・判・表	59.5	60.3	58.7

課題が見られる問題		正答率(%)		
		本市	県	全国
2 (4)	乾電池2個のつなぎ方について、直列につなぎ、電磁石を強くできるものを選ぶ	51.2	51.3	55.1
4 (1)	水の温まり方について、問題に対するまとめをいうために、調べる必要があることについて書く	48.1	53.2	50.6

全国と比べて下回った問題の中でも、上の二点が課題である。一点目は、乾電池のつなぎ方について、直列につなぎに関する知識である。二点目は、水の温まり方について、問題に対するまとめを導き出す際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することである。一点目の課題に対しては、直列つなぎと並列つなぎを同時に提示して電流の大きさや明るさの違いを体験的に理解させ、それを表やグラフにまとめる手立てが考えられる。二点目の課題に対しては、実験結果と方法の因果関係を考えたり、図や表などを用いて学習をまとめるなどの手立てが考えられる。

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果について（中学校3年生）

国語平均正答率		本市	県	全国
		54	55	54.3
知 技	(1) 言葉の特徴	48.9	48.5	48.1
	(2) 情報の扱い方	—	—	—
	(3) 言語文化	—	—	—
思 判 表	A 話す・聞く	53.3	54.3	53.2
	B 書く	51.5	53.7	52.8
	C 読む	64.7	63.6	62.3

課題が見られる問題		正答率(%)		
		本市	県	全国
1三	ちらしの中の情報について、示す位置を変えた意図を説明したものとして適切なものを選択する	59.1	64.1	63.3
2一	スライドを使ってどのように話しているのかを説明したものとして適切なものを選択する	35.9	38.6	38.1

話すこと・聞くこと、書くこと（思考・判断・表現）について、大きく二点の課題がある。一点目は書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考えることである。二点目は資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することである。これらの課題に対しては、伝える内容を生徒同士で確認し合って互いにフィードバックしたり、内容の校正を重視し、チェックリストを用いてリライトするなどの手立てが考えられる。

数学平均正答率		本市	県	全国
		51	50	48.3
A 数と式		46.1	45.0	43.5
B 図形		51.5	48.7	46.5
C 関数		50.2	48.8	48.2
D データの活用		61.3	60.2	58.6
知・技		57.5	55.7	54.4
思・判・表		42.2	41.0	39.1

課題が見られる問題		正答率(%)		
		本市	県	全国
1 (1)	1から9までの数の中から素数を全て選ぶ	33.6	33.9	31.8

全問とも全国平均を上回っている。敢えて課題を挙げるならば、上の問題である。この問題は、素数を理解しているかどうか問われている。この課題に対しては、「エラトステネスのふるい」などの視覚的な教材を活用して素数の定義を体感させるなどの手立てが考えられる。

理科平均 IRT スコア	本市	県	全国
	497	502	503

IRT (Item Response Theory) とは、児童生徒の正答・誤答が、問題の特性(難易度、測定精度)によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論。

例えば、正答率は、どの問題も難易度に関わらず1問と考えて算出するが、IRTスコアは、難易度の高い問題に正答すると高く、難易度の低い問題に誤答すると低くなる。

課題が見られる問題		正答率(%)		
		本市	県	全国
4 (1)	プロパンガスと都市ガスでシャボン玉を作った時の様子から、プロパンガス、都市ガス、空気の密度の大小を判断し、小さい順に並べる	44.6	51.3	50.4
5 (2)	実験の動画と実験結果の図から、どのような化学変化が起きているか判断し、原子や分子のモデルを移動させることで、その化学変化をモデルで表す	27.9	34.0	35.6
8 (1)	台地の変化に関する言い伝えを1つ選択し、その選択した言い伝えが科学的に正しいと判断するための理由を「地層を調べたときに何が分かればよいか」に着目して記述する	36.2	41.6	42.2

上の3問は全国や県と比べて大きく下回っている。具体的な課題の一点目は、ガス警報器の設置場所が異なる理由を考える学習場面において、実験の様子と、密度に関する知識および技能を関連付けて、それぞれの気体の密度の大小関係を分析して解釈することである。二点目は、化学変化に関する知識及び技能を活用して、実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表すことである。三点目は、地域の言い伝えを科学的に探究する学習場面において、大地の変化と、地層の様子やその構成物に関する知識及び技能を関連付けて、地層の重なり方や広がり方を推定することである。これらの課題に対しては、実験の目的や手順の意味を問い、操作と知識を結び付けたり、実験結果から考察したことを交流してより多面的・多角的に考えたり、学習を生活と関連付けたりする手立てが考えられる。